

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	1年間の履修単位数上限は、1年次から3年次においては44単位、4年次においては49単位とする。2014年度入学者より適用する。 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）は、適正に配分されている。学生の主体的参加を促す授業方法については、特に演習（ゼミナール）において実施されている。
4-3-2	シラバスについては、「助言」を受けたことを踏まえ、全学統一の書式が作成され、それに従って記入している。成績評価についても教員間のばらつきがないように、基準を明記するようになった。チェック体制を一次（事務室）、二次（各学科教務委員又はカリキュラム委員）とし、基準に沿うように実施している。授業内容・方法とシラバスとの整合性についても、配慮されている。
4-3-3	成績評価と単位認定は、シラバスに記載している基準をもとに、「履修の手引き」や学則に照らし、適正に行なわれている。
4-3-4	学生による授業評価アンケートの結果を各担当教員にフィードバックすることによって、この効果を有用なものとして活用するようにしている。集計結果はFD報告書としてまとめ公表されている。 これらは、文学部FD委員会（各学科選出教員により構成）が主体になり、実施されている。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	文学部では、4年次の履修登録単位数上限を49と設定したが、併せて、資格科目の履修の在り方についても多くの議論を重ねた。結論としては、資格科目は例外として、制限を設けない形で運用していくこととなった。
4-3-2	シラバス執筆に当たり、現代の学生指導上、教員はいかに対応すべきかということについて熟慮しなければならない、という意識が醸成されつつあるように見受けられる。
4-3-3	成績評価についても、シラバスとの相関を意識し、教員間で基準に大きな差異が生じないような配慮を、教員自身が見つけられるように見受けられる。
4-3-4	学部内にFD委員会が設置されており、全学のFD委員会の活動とも相まって、現代の大学教育におけるFD活動の重要性が、徐々に浸透している機運が窺える。

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	シラバスの記入に当たって、簡潔な指針を示したものを作成する必要がある。
4-3-3	成績評価に当たり、教員に指針を示し、チェック体制を簡便にしていく必要がある。
4-3-4	「授業評価アンケート」及び「FD委員会報告」を基に、教育方法の更なる充実を目指す検証の仕組みが必要であろう。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

教授会資料、大東文化大学ホームページ（WEBシラバス）、FD報告書

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	大学当局との折衝により、教育研究のための予算を得て、教育の質保障を充実させたい。さしあたり、可能な項目から取り組んでいく。	「授業評価アンケート」の結果分析、及び、教務委員会等での議論。	→					
14年度 目標	シラバスの記入に当たって、簡潔な指針を示したものを作成する。	シラバスの記入方法についての、簡潔な指針を示したものを作成する。	→					
	シラバスの記載内容を充実させる。		→					